



「矢板市」

八方ヶ原の豊かな環境を活かして新たな自然体験を提案する市

おしらじの滝

矢板市は、県北部に位置し、高原山を間近に望む、豊かな水と緑に恵まれた市。高原山はその美しい姿が古くから多くの人に愛されており、明治の歌人・与謝野晶子は高原山を題材にいくつもの歌を詠んでいます。山麓に広がる八方ヶ原は、春の新緑、初夏はレンゲツツジ、秋には紅葉と季節ごとにその彩りを変え、毎年、多くの人々が訪れます。八方ヶ原は一部が八方自然休養林として整備されているほか、周囲には森林浴の森100選に選定されている栃木県民の森などもあり、大きな観光資源となってきました。

矢板市では、単なる観光にとどまらず新たな展開を見せようとしています。もともと里

山と水田が大きな面積を占める矢板市では、戦後の高度成長期のころまで山林資源を活かした林業が栄えてきました。今日では、この豊かな自然を活かして自然体験や環境教育などのグリーン・ツーリズム、さらには自転車ヒルクライムレースの開催や冬のスノーシューハイキングなどを積極的に推進しており、現在誘致を進めているとちぎフットボールセンター（仮称）の実現の暁には、県内のスポーツツーリズムのメッカとしてさらに注目をあつめることでしょう。

このページでは、個性豊かな県内各市町をご紹介します。今回は、美しい自然を活かしてスポーツツーリズムなどに新たな展開を図る矢板市です。



10カ月児健診の際に絵本をプレゼントするブックスタート事業



ココマチに子どもの遊び場をつくる計画が進行中です

国を挙げての課題となっている、少子化対策・子育て支援の問題。矢板市では、「子育て環境日本一」をめざすため、子ども課を設置して子育て費用の助成（「第三子以降保育料無料化」「医療費助成」など）のほか、さまざまな支援事業を実施しています。



四季折々に美しい「八方ヶ原」の自然が矢板市の顔。

県内のスポーツツーリズムのメッカを目指しています！

八方ヶ原

高原山の東側山麓に広がる高原で、20万株にも及ぶ北関東屈指のレンゲツツジの群生など、自然の宝庫です。アクセス道路や駐車場、展望台、散策路などが整備されています。

おしらじの滝

名水に恵まれ、渓谷美の名所も随所にある矢板市。なかでもおしらじの滝は県内の滝愛好家に人気の名瀑で、案内表示もなく、古くは地元の人しか知らなかった幻の滝です。山の駅たかはらから2kmほどの所にある滝ですが、エメラルドブルーの滝壺は絶景です。



▲エメラルドブルーの滝壺

山の駅たかはら

豊かな大自然を維持しつつ、訪れた人に快適なサービスを提供するための施設。駐車場や軽食・地元産品の販売のほか、ツツジ散策や滝めぐり、スノーシューハイキングなどのイベントも企画しています。



八方ヶ原ヒルクライムレース

八方ヶ原のアクセス道路を走り、全長13.4km・標高差950mを駆け上がるヒルクライムレース。毎年8月に開催され、2015年8月に第2回目を開催しました。ゴール付近の大間々台からの絶景も人気の理由です。

矢板市の見どころ

●矢板武記念館

明治～大正時代に市の発展・近代化に尽力した矢板武の旧屋敷が、記念館となっています。数々の資料や写真を展示し、玄関に飾られた勝海舟の筆とされる書や樹齢約180年といわれる中庭のしだれ桜も見事。

●ココマチ

市の起業家を支援し、地域経済の活性化のために作られた、JR矢板駅東口駅前のコミュニティスペース。若者だけでなく、高齢者の憩いの場・きらきらサロンも併設しています。



●栃木県民の森

高原山の中腹、広さ973haの広大な森林地帯に、キャンプ場や森林展示館・昆虫館・木工体験館などの展示施設、ハイキングコースが点在する体験型の自然施設。



●寺山観音寺

前身の寺が奈良時代の創建と伝えられる古刹で、本尊は鎌倉時代の作といわれる千手観音像で、国の重要文化財。県の天然記念物の樹齢約370年の大イチョウも有名です。



●城の湯温泉センター

市営の日帰り温泉施設で、大浴場や露天風呂、ジャグジーやサウナなど規模の大きな設備が人気。休日にはかなりの賑わいを見せます。



●道の駅やいた

農村風景のなか、矢板バイパスと国道461号線の交差点沿線の道の駅。農産物直売所「旬鮮やいた」や農村レストラン「つつじ亭」のほか、最先端のエコ技術を投入したエコハウスも見学できる、個性的な施設。



●木幡神社

平安初頭の795年、坂上田村麻呂が蝦夷征伐の戦勝祈願に建立したと伝えられ、国指定重要文化財になっている「本殿」「楼門」は室町中期の建物です。平安末期から周辺を領土としていた「塩谷氏」の氏神としても知られています。



profile

●矢板市

明治22年の町村制施行で誕生した矢板村は同28年に町制を施行（矢板町）、戦後は2度の編入・合併でほぼ現在の市域となりました。市制施行は昭和33年です。

市の東部には東北自動車道や国道4号線、矢板バイパス（旧国道4号線）等の幹線道路のほか、JR東北新幹線・宇都宮線が縦貫しており、県の内外から多くの人々が訪れてきます。

また観光庁が掲げるスポーツツーリズムの理念にも着目。県サッカー協会が発表したとちぎフットボールセンター（仮称）整備構想に対しては、いち早く誘致に名乗りを挙げました。

- ▶面積：170.46 平方 km
- ▶人口：33,919 人（13,117 世帯）